

U022-P12

会場:コンベンションホール

時間:5月22日 10:30-13:00

台風災害データベースシステムについて Typhoon Disaster Database System

栢原 孝浩^{1*}, 下川 信也¹

Takahiro Kayahara^{1*}, Shinya Shimokawa¹

¹ 防災科研

¹NIED

台風による災害が発生すると、国や地方自治体等の機関は災害・被害に関する情報を収集し、取りまとめられた災害情報は、報告書や資料として公表される。過去に発生した台風災害の状況を知ることは、将来の台風災害に備えるためにも重要な情報となる。各機関毎に作成された報告書等は、各都道府県図書館などに保存され、各機関が開設しているホームページ上でも閲覧できる場合もある。これらの報告書等は分散して存在しているため、一覧的に見ることは困難である。全国から台風災害・被害に関する情報を収集、管理し、データベースに登録された台風災害の情報を、インターネットを通して、誰もが閲覧できる台風災害データベースシステム (<http://ccwd05.bosai.go.jp/DTD/>) を構築し整備している。

本システムは、データベースサーバ、地理情報システム (GIS) サーバ、ウェブサーバの3つのサーバから構成されている。データベースサーバには、1951年以降の日本に被害をもたらした台風に関する情報、台風災害・被害に関する情報、被害情報登録に使用した災害報告書等のリスト、各地方自治体の災害担当機関のリスト、台風や災害に関するホームページに登録している。GISサーバは、台風経路と災害発生地域の分布を地図上で把握できるようにするため、ウェブブラウザ上で地図表示のできる WebGIS 機能を利用している。

登録される台風に関する情報は、台風番号、名称、GLIDE 番号、経路情報、中心気圧、最大風速、概要、海面気圧図、衛星画像図、降水分布図である。台風災害・被害に関する情報は、被災地名、日時、被害種類、被害件数、被害概要である。

本システムにより、日本に被害をもたらした台風と災害や被害に関する情報を検索し、閲覧することができる。台風検索は、台風番号、名称、GLIDE 番号、期間、災害発生地域、台風通過場所を指定して行うことができる。検索された台風の概要表示ページでは、台風の概要や各種図、中心気圧と最大風速の時系列グラフなどが取りまとめられて表示される。台風災害表示ページでは、WebGIS 機能を利用して、台風経路と選択した被害の地域や被災地点を表示して、台風の通過位置と被害の発生状況を把握することができる。

今後も情報提供を良好に進めていくため、データの充実とともに、ハードウェアやソフトウェアのバージョンアップを行うことを計画している。

キーワード: 台風災害, データベース, インターネット, WebGIS

Keywords: Typhoon disasters, Database, Internet, WebGIS